

中国人大学生のキャリア意識と中国の大学に  
求められるキャリア教育  
-大連外国語大学との日中共同アンケート調査の分析-

九 門 大 士

Research on Career Mindset of Chinese  
University Students and Career Education  
in Universities in China  
-From the Case of Dalian University  
of Foreign Language (DUFL)-

Takashi KUMON

はしがき

中国の高等教育における職業指導教育（以下、キャリア教育）<sup>1</sup>を考えるにあたって、中国における大学や大学生の就職状況について概観しておきたい。中国では、1999年に中国政府による大学の量的拡大への政策転換が実施された。その結果、中国統計年鑑によると、大学数は2000年の1,041校から2017年には2,631校と2.5倍に増加した。同期間の大学生数も増加を続け、2000年の556万人から2017年には約5倍の2,753万人に急増した。

大学数および大学生数が増加するこのような状況下で、大学生の就職難が深刻化している。中国の大卒者の未就職者数は、大学数・入学募集数の拡大が始まった1999年には、17.6万人だったが、2003年には56.3万人に増加、そ

---

<sup>1</sup> 中国におけるキャリア教育は、「職業指導教育」や「職業生涯教育」と呼ばれるが、本稿では「キャリア教育」と表記する。

の後も増え続け2010年には175万人に達している。就職率も、1990年代後半に落ち込み始め、2003年に70%に落ち込んだ後7割前後で推移し、2010年には72.2%となった<sup>2</sup>。現在も大学生の就職難は続いており、近年では大きな社会問題となっている。中国では新学期が9月から始まり、6月頃に卒業するが、就職活動は2回ピークの時期がある。卒業前の年の4年生の9月～10月と卒業が近づく2月～3月頃から始まり、2～3か月ほど続く。中国の報道によると、大学卒業者は2017年に795万人、2018年に820万人とされている。うち未就職者が2割としても、164万人に上る<sup>3</sup>。文部科学省によると、2018年の日本の大学卒業者数は56万5,436人であり、中国では日本の3年間分の大卒者が就職できない程の規模となっている。

こうした状況を鑑みて、中国政府は2000年ごろから大学におけるキャリア教育を推進するようになった。高（2013）によると、キャリア教育が中国の大学で初めて登場したのは、2000年に北京大学などによって主催された「大学生職業生涯設計」巡回講演であった。その後、中国教育部が2006年に「中国大学生職業生涯設計コンクール」を主催し、一流大学のみを対象にするのではなく全国の大学に拡大させた。また、教育部は2007年就職指導を正課にする際に職業生涯教育（キャリア教育）を取り入れるよう指示した。2011年には大学のカリキュラムへのキャリア教育の導入が義務化され、政府の推進によりキャリア教育は拡大してきた<sup>4</sup>。

これらの課題を解決するために、大学におけるキャリア教育の重要性も増しているが、現状の先行研究では、中国のキャリア教育の実証研究例は非常に限定的である。そこで、2018年度から大連外国語大学と「日本・中国の高等教育におけるキャリア教育の比較」についての共同研究を開始した。大連外国語大学とは亜細亜大学の「アジア夢カレッジ－キャリア開発中国プロ

---

<sup>2</sup> 蔣（2013）14-15ページ。

<sup>3</sup> 九門（2019）8ページ。

<sup>4</sup> 高（2013）60-61ページ。

グラムー」というプログラムなどの提携を行っている。同大学では、今後のキャリア教育の推進が課題の1つとなっており、同大学におけるキャリア教育の現状把握を含め、日本と中国の大学におけるキャリア教育の比較という観点から複数のテーマについての研究を進めている<sup>5</sup>。

本稿は共同研究の一環として、大連外国語大学の大学生を対象として2018年10月に実施した「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査（日中共同研究）」と題するアンケート調査結果の分析を中心に中国の大学のキャリア教育の問題点を明らかにするとともに同大学の大学生のキャリア意識について検討する。

## 第1節 中国のキャリア教育に関するアンケート調査概要と基本情報の分析

### 1. 中国のキャリア教育の実践に関する先行研究の分析

「キャリア」の定義について、Schein（1978）は、キャリアとは人の生涯を通じての仕事としている。キャリアに影響を与えるものとして、生物学的・社会的加齢や結婚などの家族関係があり、これらと仕事とキャリア形成のサイクルが相互に影響し合うとしている。坂柳（1996）は、最近のキャリアの概念は、『「職業」という視点から「人生・生涯」という視点にまで拡大して、より包括的になっている』とし、「大学生のキャリア成熟の測定にあたっては、職業面だけでなく、人生面も視野範囲に入れておくことが必要」<sup>6</sup>と述べている。本稿においても、「キャリア」は職業の視点に限らず、個人の人生をも含んだ概念として捉えることとする。

中国におけるキャリア教育の実態を調査した先行研究は非常に限られる。趙（2010）はキャリア教育の実践面の調査を北京の8大学に対して実施した。彼が調査した北京の8大学のキャリア教育は一定の成果を挙げている。しかし、キャリア教育に対する大学生側の需要と大学側の供給にミスマッチがあ

---

<sup>5</sup> 九門（2019）8ページ。

<sup>6</sup> 坂柳（1996）9ページ。

る、教育内容の多様性に欠ける、専門の指導教員と経費が不足している、の3点を主な問題点として挙げている<sup>7</sup>。

張（2015）は2014年7月から8月にかけて北京以外の異なる3地域にある3つの大学を対象に大学生への質問紙調査とインタビュー調査を実施した。張（2015）は、結論として、中国の大学キャリア教育は一定の成果をあげており、大学生の意欲も高いとしつつも、下記の問題点を挙げている。第1に、キャリア教育の質が低いとして多数の大学生がキャリア教育に不満を持っている点だ。第2に、キャリア教育の課程設置（カリキュラム）の問題だ。学生の専門を問わず、同じ教科書を用いており、講義形式のため知識と理論面の指導しかできない。専門分野に対応した科目の設置およびすべての授業において教科書を読む講義型ではなく、双方向で議論できる参加型授業が必要としている。3点目は、キャリア教育と関連した活動の学生への周知の問題である。大学のキャリア教育に関わる活動が周知されていないため、学生の参加率が低いということだ<sup>8</sup>。また、張（2016）は中国のキャリア教育の中で、人生観の育成などの要素が不足していると指摘している<sup>9</sup>。

これらのことから、中国のキャリア教育は発展途上にあり、大学生は大学のキャリア教育に対して、一定程度の不満を感じている傾向にあるといえる。また、彼らは就職活動に直結するような内容のキャリア教育を求める傾向にあり、大学側はその要望に応えきれていないという構図が見える。ただし、大学生が現状求めるニーズを満たすだけでは十分でないと考えられ、多くの学生が希望する就職活動のスキルのみならず、人生のデザインについて考えたり自己認識を深めるような機会が必要だと考えられる。なぜなら、張（2015）が実施したアンケート調査の中で就職活動中に苦勞した項目として「自己認識と自信が不足している」と回答する学生が多くいたにもかかわらず、大学

---

7 趙（2010）《出典：張（2015）55ページ》

8 張（2015）70-71ページ。

9 張（2016）38ページ。

側から適切な教育内容が提供されておらず、大学生もその項目については軽視する傾向にあるためである<sup>10</sup>。

筆者はこれらの課題に対応するため、重慶大学と大連外国語大学の学生に対して、「自己認識」を深めるために2014年～2019年に各年3回のキャリア研修を実施してきた。Kumon (2017) は、2014年～2016年のキャリア研修が日中の大学生のキャリア成熟にどのような影響を与えてきたかを受講した日中大学生へのインタビュー調査によって考察した<sup>11</sup>。結論の1つとして、特に中国人大学生が「人生で大事にしている価値観」や「働く意義」を理解することで、それらを自分のキャリアにいかに関結につけるかについて気づき、理解を深めた点が挙げられる<sup>12</sup>。同研究では、対象とした中国人学生の人数が計37名と限られていたため、改めて大連外国語大学全体のキャリア教育の現状と課題を明らかにし、学生が人生で大事にしている価値観を理解し、自己認識を深めるような教育へのニーズがあるのかについても検証するアンケート調査を実施するに至った。

## 2. アンケート調査の概要

上記の先行研究でアンケート調査が実施されたのは、北京市の8大学、および吉林省・山東省・江蘇省にある3大学であった。本研究では、それ以外の地方都市である遼寧省旅順市に焦点をあててアンケート調査を実施した。また中国の地方都市にある外国語大学に対する先行研究も限られているため、地方都市の専門系大学における今後のキャリア教育に示唆を与えるものとなると考えられる。

アンケート調査対象は大連外国語大学の日本語学部・英語学部・商学部・ソフトウェア学部<sup>13</sup>に在籍している1年生～4年生とした(表1)。学生の専

---

<sup>10</sup> 張 (2015) 57ページ。

<sup>11</sup> Kumon (2017), pp. 155-160.

<sup>12</sup> Kumon (2017), pp. 160-162.

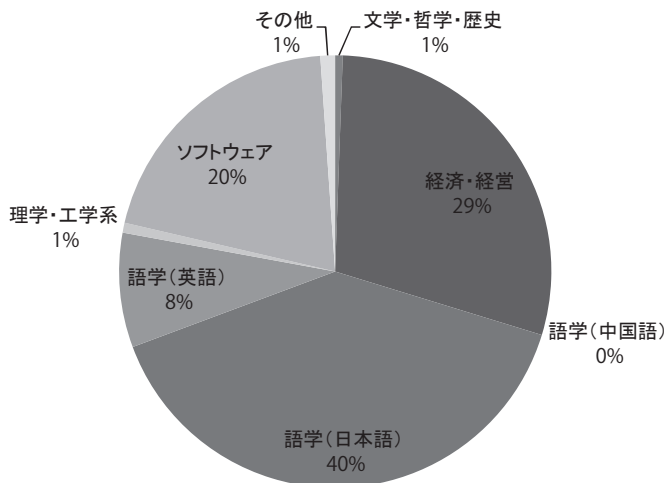
門については、以下の通りである。調査は、2018年10月11日～10月23日の調査期間に、各学部の教員を通じて学生にウェブの回答用リンクから回答してもらう形で実施した。回答数は538名（男性：99名、女性：439名）であった<sup>13</sup>。

表 1：学年ごとの回答者数

1年	67
2年	3
3年	379
4年	89

資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

図 1：専門（n=538）



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

本アンケート調査は、基本情報3問と質問16問の計19問から構成されてお

<sup>13</sup> 九門（2019）8-9 ページ。

り、いずれもキャリア教育、就職指導やキャリアプランに関わる内容とした。設問の分類は、坂柳（1996）の「職業キャリア・レディネス尺度（CRS）の質問項目」の分類を参照し、大学の現状と学生の関心性・自律性・計画性が確認できるようにした（表2）。キャリア・レディネス尺度は職業面、人生面の両面から大学生のキャリア成熟を測定するために作成された尺度である<sup>14</sup>。5番の問題に関しては、「複数回答可」とした上で、影響度が高い順に並べてもらった。

表2 アンケート質問項目と分類

取り組み	Q 1	あなたの大学の職業指導（生涯）教育は何年次から始まりましたか？
	Q 2	大学では何年次から職業指導（生涯）教育を始める必要があると思いますか？
	Q 3	あなたが参加したことのある職業指導教育の形式は？
関心性	Q 4	あなたが大学の職業指導教育で必要と考える講座や指導は何ですか？（複数回答可）
	Q 5	あなたは自分のキャリア選択にどのような要因が影響していると思いますか？（3つ選択、影響度順に並べる）
	Q 6	あなたが人生において大事にしている価値観を3つ選択してください。
	Q 7	自分の価値観をベースにした職業選択を考える職業指導教育の講座に参加してみたいと思いますか？
自律性	Q 8	現在の大学における職業指導教育の内容についての満足度は？
	Q 9	あなたが不満足の原因は何ですか？
	Q10	あなたが就職活動で苦労した点は何ですか？（複数回答可）
	Q11	企業・職場に求める条件は何ですか？（3つ選択）

<sup>14</sup> 坂柳（1996）、9ページ。

計 画 性	Q12	卒業後の進路はどういう予定ですか？
	Q13	就職または起業する時の場所・国を選んだ理由は何ですか？
	Q14	勤務地（国）を選んだ理由は何ですか？（複数回答可）
	Q15	大学院卒業後、どこで就職する予定ですか？
	Q16	大学院で留学する理由は何ですか？（複数回答可）

資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

### 3. キャリア教育の開始年次・満足度・不満足の原因

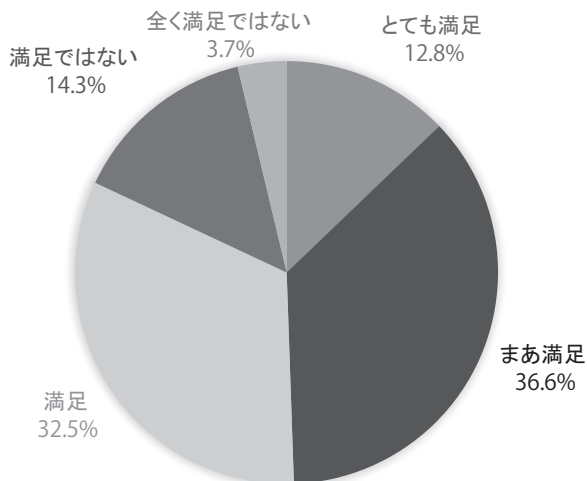
調査結果の分析を下記の通り行った。「大学でのキャリア教育は何年生から始まったか」という質問への回答は、「大学3年生（40%）」、「大学1年生（33%）」、「大学2年生（25%）」、「大学4年生（2%）」となり、就職活動が始まる前の大学3年生が40%と最も多かったが、大学1年生でも全体の33%がキャリア教育を受けていることがわかった。

「大学では何年次からキャリア教育を始める必要があると思うか」という質問に対しても、「1年生（46.8%）」が最も多く、「2年生（24.9%）」、「3年生（24.7%）」と続いた。「4年生（3.5%）」は非常に少なく、できるだけ早期から開始すべきという意見が多数となっている。1年生から始めるべきと回答した学生が46.8%と半数近いのに対し、前の設問で実際に1年生からキャリア教育が始まったと回答しているのは、33%と3分の1に過ぎず、学生のニーズと大学での施策にギャップが生じている。

次に、「現在の大学におけるキャリア教育の内容についての満足度」の質問に対する回答は、「とても満足（12.8%）」、「まあ満足（36.6%）」、「満足（32.5%）」、「満足ではない（14.3%）」、「全く満足ではない（3.7%）」となった。「とても満足」、「まあ満足」、「満足」を合計すると満足している学生の割合は82%と非常に高い結果となった。



図2：大学のキャリア教育への満足度 (n=538)



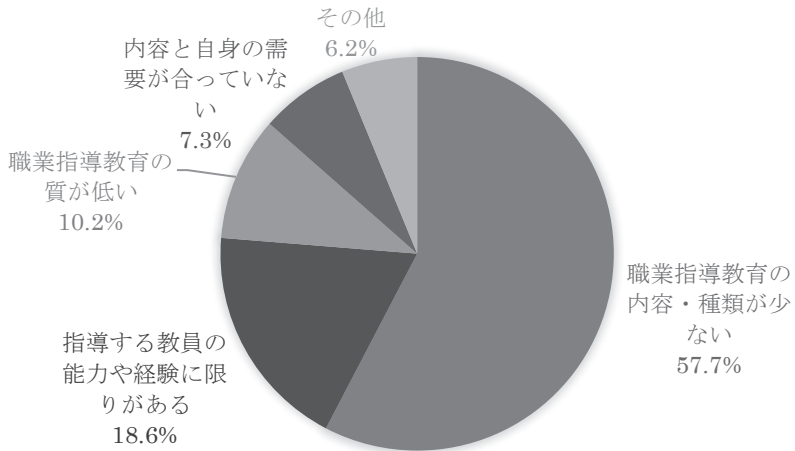
資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

しかし、この結果には疑問が残る。次の質問で、「不満足の原因は何か（上述の間で満足ではない・全く満足ではないと回答した者のみ対象）」を聞いたところ、274名が回答している。前述の質問で、不満足の原因を回答した学生は合計97名であったことを考えると、満足と回答した学生が質問の読み違いで回答してしまった、または満足と回答した学生の中にも不満を持っている学生が多く存在するという2つの可能性が考えられる。「満足」「まあ満足」「とても満足」と回答した学生中、不満足の原因に回答した学生の割合は4割に上っており、これら学生も多かれ少なかれ不満を持っている可能性が高い。この点について、内容の精査や今後についてはアンケート調査の設計変更なども必要である。

その点を踏まえた上で、不満足の原因をみると、「職業指導教育の内容・種類が少ない (57.7%)」が最も多く、より現実に即した幅広い内容のキャリア教育へのニーズが高いことがわかる。以下、「指導する教員の能力や経験に限りがある (18.6%)」、「職業指導教育の質が低い (10.2%)」、「職業指

導教育の内容と自身の需要が合っていない (7.3%)」、「その他 (6.2%)」の順で回答が多かった。「その他」に記入された学生のコメントには、「先生の実務経験が少ない」、「現実在即した実用的な内容が少ない」「クラスの中での相互のやり取りが少ない」などがあった<sup>15</sup>。

図3：キャリア教育に不満足の原因 (n=274)



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

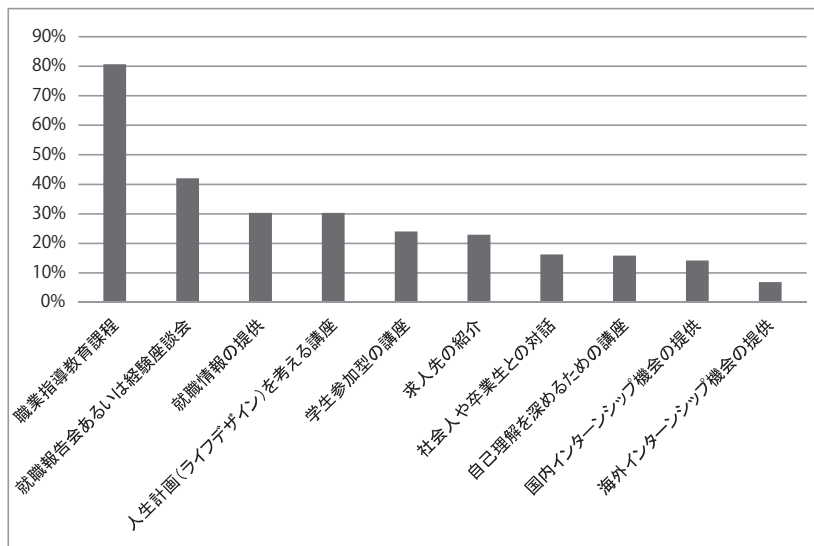
#### 4. 参加したキャリア教育の種類と希望するキャリア教育の比較

別の設問からも学生のニーズが満たされているかを比較検討した。「参加したことのあるキャリア教育の形式 (複数回答可)」の質問に対しては、「職業指導教育課程 (80.7%)」、「就職報告会あるいは経験座談会 (42%)」、「就職情報の提供 (30.3%)」、「人生計画 (ライフデザイン) を考える講座 (30.3%)」、「学生参加型の講座 (24%)」、「求人先の紹介 (22.9%)」の順に回答が多かった。以降の回答は、「社会人や卒業生との対話 (16.2%)」、

<sup>15</sup> 九門 (2019) 8-9 ページ。

「自己理解を深めるための講座（15.8%）」、「国内インターンシップ機会の提供（14.1%）」、「海外インターンシップ機会の提供（6.9%）」の順となり、国内外のインターンシップについては最も回答が少なかった（図4）。

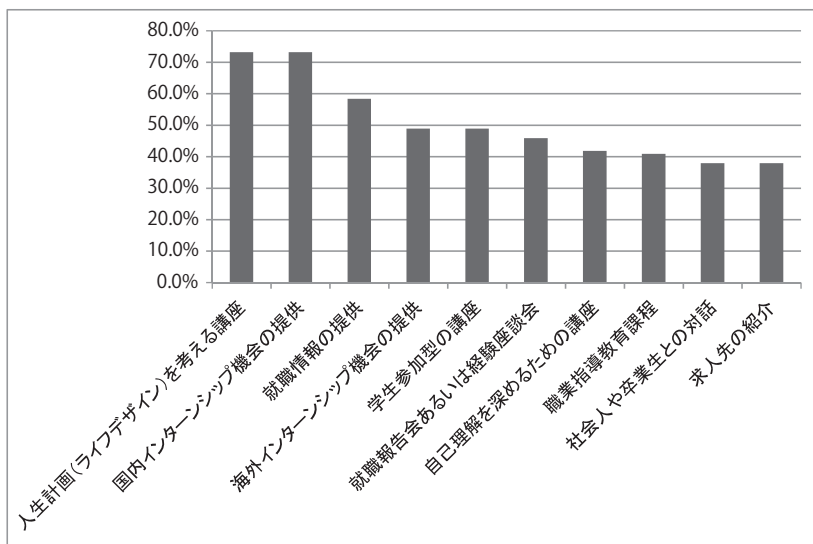
図4：参加したことがあるキャリア教育の形式（n=538）



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

一方、「大学のキャリア教育で必要と考える講座や指導（複数回答可）」の質問に対しては、同じ選択肢を用いたが回答内容は大きく変化した。「人生計画（ライフデザイン）を考える講座（73.2%）」、「国内インターンシップ機会の提供（73.2%）」、「就職情報の提供（58.4%）」、「海外インターンシップ機会の提供（48.9%）」、「学生参加型の講座（48.9%）」、「就職報告会あるいは経験座談会（45.9%）」、「自己理解を深めるための講座（41.8%）」、「職業指導教育課程（40.9%）」、「社会人や卒業生との対話（37.9%）」、「求人先の紹介（37.9%）」の順に回答が多かった（図5）<sup>16</sup>。

図5：「大学のキャリア教育で必要と考える講座や指導」（複数回答可）（n=538）



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

前述の2つの設問について比較してみると、学生のニーズは「人生計画（ライフデザイン）を考える講座」が73.2%で1位となったが、実際に講座に参加したことがある学生は30.3%しかいなかった。「国内インターンシップ機会の提供」は同率の73.2%で1位となったが、参加経験のある学生は9位でわずか14.1%しかいなかった。海外インターンシップに至っては48.9%が必要と考えているが、参加したと回答した学生は最下位の6.9%という結果であった。国内外のインターン実習については学生のニーズが非常に高い一方、大学側がインターン先およびインターンにつながる情報提供などを適切に実施できていない状況が明らかになった<sup>17</sup>。

<sup>16</sup> 九門（2019）9ページ。

<sup>17</sup> 九門（2019）9ページ。

## 第2節 大学生の価値観・キャリア選択要因と就職活動

### 1. 大学生の価値観とキャリア選択に影響する要因

「人生において大事にしている価値観（3つ選択）」の設問に対しては、「家族（315名）」、「健康（226名）」、「富（208名）」、「自由（123名）」を100名以上が選択しており、続いて「友情（80名）」、「自立（75名）」、「楽しむ（74名）」、「夢（58名）」、「成長（57名）」の順に回答が多かった（表3）。

表3：人生において大事にしている価値観（3つ選択、n=538）

家族	315	58.6%
健康	226	42.0%
富	208	38.7%
自由	123	22.9%
友情	80	14.9%
自立	75	13.9%
楽しむ	74	13.8%
夢	58	10.8%
成長	57	10.6%
名誉	41	7.6%

資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

「家族」が最多の回答となったのは家族のつながりや血縁関係を重要視する中国人としてはある程度想定された回答だった。ただし、「家族」の概念や重要度に関しては日本と中国では大きく異なるであろう。中国では両親や同居している家族のみならず、親戚一同を含めて大きな意味での家族としてとらえている。大連外国語大学の中国人学生にヒアリングしたところ、家族は20名以上と答える学生もおり、また一人っ子世代のため、自分を大事に育ててくれた親や家族は非常に大切な存在という意見も多かった。

第2位には「健康」が入っている。これも同大学の中国人学生に聞くと、

「ワークライフバランス」の重要性を指摘する学生が多かった。「働き始めると、睡眠時間が短くなる。体が資本なので健康を維持することが大事」などの声が上がった。中国でも一部企業では長時間労働や仕事のプレッシャーやストレスが話題となっており、自分が関心がある仕事をしつつもがむしゃらに働くのではなく、自分の余暇や時間を確保しながら働きたいという今の大学生の価値観が根底に見えてくる。

また若干鈍化してきたとはいえ経済成長を続けてきた中で「富」、「夢」、「成長」を重要視する学生が多いと言える。日本の大学生にも大事にしている価値観を授業などで聞くことがあるが、中国で上位に挙がっている「家族」や「富」が一番に出ることは少ない。一方、「自由」、「楽しむ」は、自分の興味関心や楽しいことを重要視する「90後」世代の特徴でもあると思われる。この点については日本の大学生や20代とも共通している点であろう。

「自分の価値観をベースにした職業選択を考えるキャリア教育の講座に参加してみたいか」という設問に対しては、「はい（466名・86.6%）」、「いいえ（72名・13.4%）」と9割近い学生が参加意欲を見せていることから、仕事を探す際にも自分の価値観を重視したいという現在の若者の姿勢が表れているといえる。こうした姿勢については、日中のみならず、ミレニアル世代に共通した姿勢とも考えられ、今後の検討課題としたい。

「自分のキャリア選択にどういう要因が影響していると思うか（3つ選択して、影響度が高い順に記載）」という設問に対しては、2「自分の興味・関心（505名）」、6「世の中の流れ（432名）」、1「親の意見（330名）」、5「世間体・面子（151名）」、4「先生の意見（108名）」、3「友人の意見（36名）」の順で回答した学生が多かった。

3つの組み合わせを見ると、1、2、6の番号を選んだ240名が最も多く、うち組み合わせでは「261（80名）」「621（72名）」「126（39名）」「216（29名）」「612（17名）」「162（3名）」の順となった。また、この組み合わせの中で

表4：キャリア選択に影響している要因（3つ選択、n=538）

	回答人数	割合
2 自分の興味・関心	505	93.9%
6 世の中の流れ	432	80.3%
1 親の意見	330	61.3%
5 世間体・面子	151	28.1%
4 先生の意見	108	20.1%
3 友人の意見	36	6.7%

資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

どの項目を最重視したかで見ると、「自分の意見」が263名（48.9%）、「世の中の流れ」が174名（32.3%）、「親の意見」を最重視した学生は、82名（15.2%）と全体の順位と同じになった。多くの大学生は、自分の興味・関心や社会情勢をベースにキャリア選択を考えているが、親の意見も一定の影響があり、ある程度考慮せざるを得ない状況といえる。

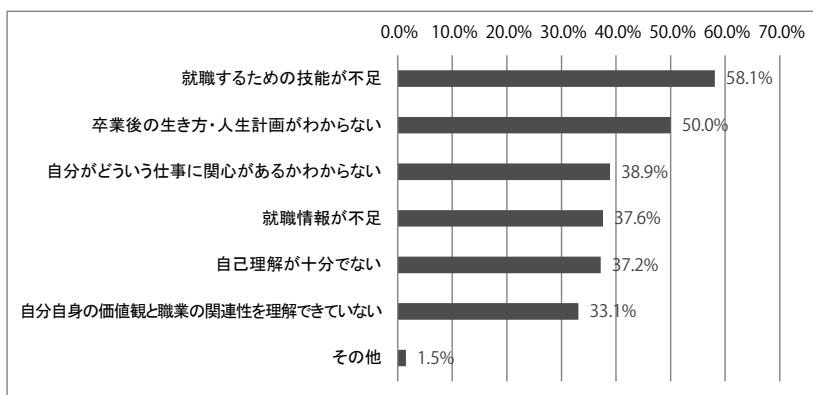
## 2. 就職活動での課題と企業に求める条件

「就職活動で苦労した点」についての質問への回答では、回答者の中に1～2年生が70名含まれており、就職活動を経験していない可能性が高いため、それら回答を除外して3～4年生のみで再集計した。結果、回答者が468名となったが、大きな傾向は1～2年生を含めた場合と変わらなかった。以下では、3～4年生を対象にした結果を示す。

「就職するための技能が不足（58.1%）」、「卒業後の生き方・人生計画がわからない（50.0%）」、「自分がどういう仕事に関心があるかわからない（38.9%）」、「就職情報が不足（37.6%）」、「自己理解が十分でない（37.2%）」、「自分自身の価値観と職業の関連性を理解できていない（33.1%）」、「その他（1.5%）」という順になった。

就職に向けた技能や就職情報が不足しているというような情報・スキル面での回答が最も多い一方、卒業後の生き方や仕事への関心がわからない、自己理解不足などの回答も目立った。仕事への関心などを含めた自己認識が不十分で、将来の目的を見失っている状態にある大学生が多い結果となった。

図6：就職活動で苦労した点（複数回答、n=468）

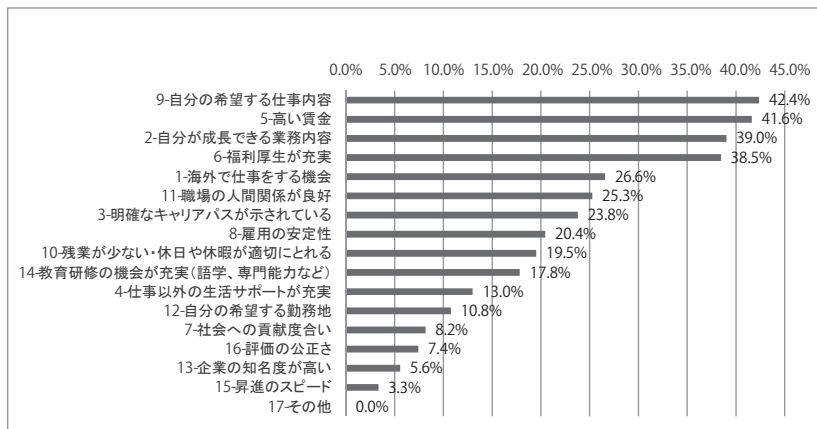


資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

「企業・職場に求める条件」についての質問では、「自分の希望する仕事内容（42.4%）」、「自分が成長できる業務内容（39.0%）」などの順位が高く、自身の興味関心がある仕事について業務を通じて成長したいというニーズが表れている。一方、「高い賃金（41.6%）」、「福利厚生が充実（38.5%）」、など条件面を重視する学生も多い。その後は、「海外で仕事をしたい（26.6%）」、「職場の人間関係が良好（25.3%）」、「明確なキャリアパスが示されている（23.8%）」などが続いた（図7）。成長できる業務に関連して、海外業務ができる、明確なキャリアパスがあるなど自分自身の成長と次へのステップにつながる点についても多くの回答が見られた。



図7：企業・職場に求める条件（複数回答、n=538）



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

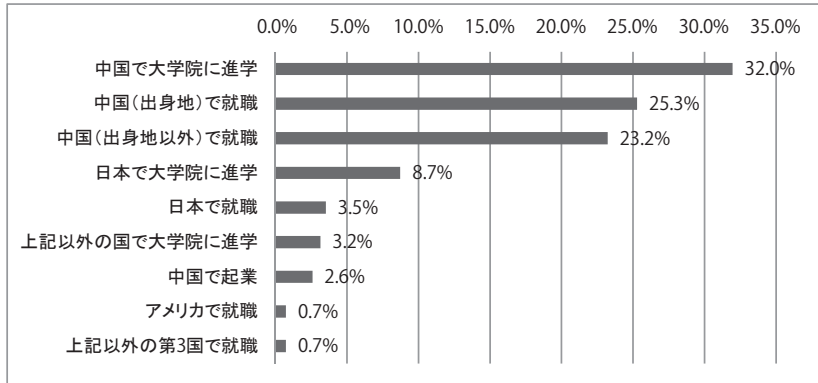
### 第3節 卒業後の進路（進学・就職・留学など）と理由

「卒業後の進路」についての質問では、「中国で大学院に進学（32%、72名）」と回答した学生が3割を超え最も多かった。次に、「中国（出身地）で就職（25.3%、136名）」、「中国（出身地以外）で就職（23.2%、125名）」と続き、中国で就職する学生は合計で6割弱となった（図8）。大連外国語大学の学生は東北三省出身の学生が多い。中国（出身地以外）での就職希望が半数を占めるのは、景気不振が続く同地域から、北京、上海、南方など経済発展が続き、活気がある都市部に職を求める学生が多いことの表れとみられる。同地域で求職をする難しさや大都市部の方が給与水準が1.5倍程度になり、プライベートで遊べるような場所・施設も多いのが理由として挙げられる。「日本で大学院に進学（8.7%、47名）」、「日本で就職（3.5%、19名）」と日本に留学または就職と回答した学生は66名と全体の1割程度いた。

「上記以外の国で大学院に進学（3.2%、17名）」とした学生は、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツなど欧米・英語圏が多かった。「中国で起業（2.6%、

14名)」は意外に少なく、「アメリカで就職（0.7%、4名）」、「上記以外の3国で就職（0.7%、4名）」となった。

図8：卒業後の進路（n=538）

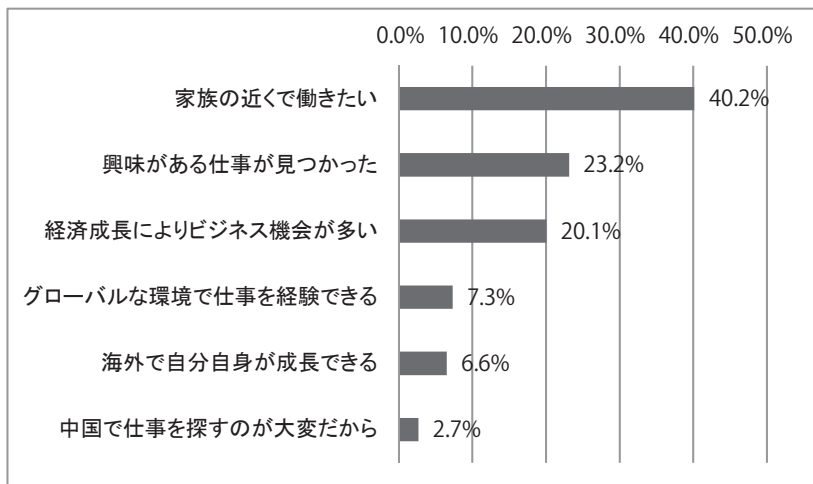


資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

「就職または起業する時の場所・国を選んだ理由」についての設問に対しては、「家族の近くで働きたい（40.2%、104名）」と回答した学生が最も多い。これは全回答者の8割以上が女性ということにも影響しており、大学卒業後、家族のいる場所で働くという選択をする者が多いと考えられる。「興味がある仕事が見つかった（23.2%、60名）」、「経済成長によりビジネス機会が多い（20.1%、52名）」などがそれに続いている（図9）。

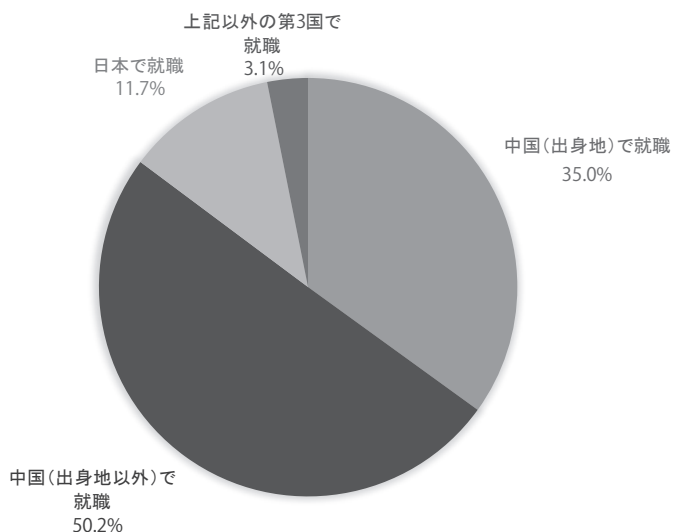
「大学院卒業後、どこで就職する予定か」という設問に対しては、「中国（出身地以外）で就職（50.2%、112名）」、「中国（出身地）で就職（35%、78名）」、「日本で就職（11.7%、26名）」、「上記以外の第3国・地域で就職（3.1%、7名）」となった（図10）。85%の学生は中国での就職を考えている。

図9：就職・起業の場所・国を選んだ理由 (n=259)



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

図10：大学院卒業後、どこで就職する予定か (n=223)



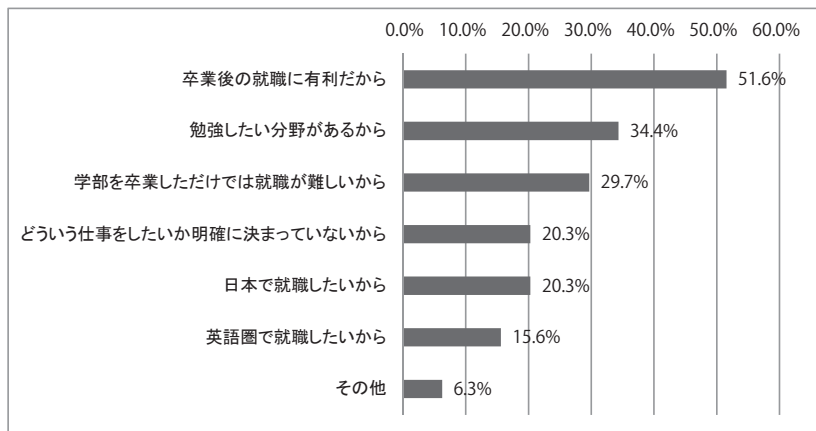
資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

大学院で留学する理由は何ですか？〈複数回答可〉と留学の目的を問う質問では、「卒業後の就職に有利だから（51.6%、33名）」との回答が最も多かった。次に、「勉強したい分野があるから（34.4%、22名）」が続いた。

また、「学部を卒業しただけでは就職が難しいから（29.7%、19名）」、「どのような仕事をしたいか明確に決まっていないから（20.3%、13名）」などの回答も多かった。学部卒のみでは中国での就職が難しい状況にあり、基本的には大学院まで行き、海外での経験も積むことで就職に有利に働くと考える学生が多いことがわかる。

「日本で就職したいから（20.3%、13名）」、「英語圏で就職したいから（15.6%、10名）」と留学先での就職を考える学生も一定数存在する。

図11：大学院で留学する理由（n=64）



資料：「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査」より作成

おわりに：大学のキャリア教育と大学生や企業ニーズのギャップ解消に向けて

今回のアンケート調査から導き出された点として、以下の4点が挙げられる。第1に、大学での教育と大学生の潜在的ニーズに大きなギャップがあり、より現実に即した対応が求められているという点である。これは大学で

の教育と企業が求める人材のミスマッチにもつながる。大企業や IT 企業は実習経験や具体的な専門的スキルを求めるが、学生はそうしたスキルを持っていないことが多い<sup>18</sup>。例えば、外国語大学では日本語や英語のように語学を学ぶ学生が中心となるが、加えて IT や会計のようにプラスアルファの専門性やインターンなどの実習経験が求められるようになってきている。そのため、ウェブなどの技術を学外の講座で自費で学んだり、インターン経験を積む学生も徐々に増えてきている。また、逆にソフトウェア学部の学生のように、IT 技術を専門としている学生が日本語など語学を身に着けるケースもみられる。こうした学生はまだ少数ではあるが、日本企業によっては卒業後すぐに日本で就職させるケースもあり、世界的に IT 人材不足が深刻化する中ニーズは増加している。

第 2 に、90後の学生は基本的に自分の興味・関心をベースにキャリア選択を考えつつも、自身の興味関心や仕事との関連性を認識できない者が一定数存在する点である。実際、「キャリア選択に影響している要因」についての設問で、「自分の興味・関心」を選んだ回答者の人数が最も多く、「世の中の流れ」、「親の意見」が続いた。「企業・職場に求める条件」についての設問でも、「自分の希望する仕事内容（42.4%）」、「自分が成長できる業務内容（39.0%）」などの順位が高く、自身の興味関心がある仕事について業務を通じて成長したいというニーズが表れている。また、「自分の価値観をベースにした職業選択を考えるキャリア教育の講座に参加してみたいか」という設問に対しては、9割近い学生が参加意欲を見せており、学生が自分の価値観を理解し、自己認識を深めるキャリア教育へのニーズは潜在的に非常に高いといえる。

一方、「人生において大切にしている価値観」では、「家族」、「健康」、「富」が上位 3 項目に挙がり、キャリア選択に影響する要因でも 3 位に挙げられた

---

<sup>18</sup> 九門（2019）9 ページ。

ように親の意見も一定の影響があることがわかる。また、学生側の将来のキャリアや人生プランや仕事への関心がわからない、自己認識不足などの課題もある。この背景要因として、同大学の職員などにヒアリングしたところ、経済成長で豊かになりかつ一人っ子的のため就職できなかったとしても両親が養うケースが多いこと、幼稚園から大学入試（高考）に向けての受験勉強が始まることなどにより、自分の将来について考えるプレッシャーも考える機会も少ないことが挙げられる。

第3に、大学院進学・留学する者が非常に多いということである。「卒業後の進路」についての質問では、「中国で大学院に進学（32%）」と回答した学生が3割を超え最も多かった。「日本で大学院に進学（8.7%）」、「上記以外の国で大学院に進学（3.2%）」を合わせると43.9%となり、約半数近くが卒業後大学院に進学することになる。「大学院で留学する理由（複数回答可）」として、「卒業後の就職に有利だから（51.6%）」との回答が最も多く、よりよい就職先を見つけたいという上昇志向的な意欲がみられる。

一方で、3位に「学部を卒業しただけでは就職が難しいから（29.7%）」、4位には「どういう仕事をしたいか明確に決まっていないから（20.3%）」が挙げられ、学部卒のみでは中国での就職が難しい状況やモラトリアム的な消極的要因も多くみられ、第2のポイントで述べた自分の興味関心と仕事の関連性が理解できないという点とも関連している。

第4に、全体の10%程度を占める66名が日本に留学もしくは就職を目指している点である。この66名の内訳を日本語専攻と非日本語専攻で分けると、日本語専攻が44名、非日本語専攻が22名と7割弱が日本語専攻となったが、非日本語専攻の学生も3割強存在するということだ。その中心はソフトウェア学部、経営・経済学部である。さらに、日本での就職に限ってみると、大学卒業後日本で就職（19名）と大学院卒業後日本で就職（26名）と回答した者を合計すると45名となり、日本での就職に関心を持つ学生が多いことがわかる。

今後大学側としてこうした就職難の状況下における多様なニーズや課題に対応するために以下の5つの提言を行いたい。

第1に、インターン受け入れに関わる産学連携の体制づくりである。国内外のインターン実習については学生のニーズが非常に高い一方、大学側がインターン先およびインターンにつながる情報提供などを適切に実施できていない。大連外国語大学へのヒアリングによると、中国企業の多くはまだ即戦力にならない大学生を受け入れるという意識が低い点もあり、インターシップは企業の受け入れ先を確保して継続的に学生を送るのが難しい状況である。また、大学生の多くが自身の興味関心や仕事との関連性を認識できないという問題に対しても、企業の現場で実習経験を積むことでより現実的に仕事への関心や自身との相性などについて考えるきっかけとなる。

第2に、経験と内省をリンクさせ、自己認識を深めていく教育の充実である。インターンの例でいうと、単にインターンを実施するだけではなく、事前・事後に自分の価値観や職業観を問い直したり、準備やインターンによる学びや気づきについて改めて内省する機会を授業などを通じて持つことが重要である。これにより、自分の価値観と将来のキャリアや人生の関連性をより具体的に考えることができる。

第3に、より早期からのキャリア教育開始である。1年生からのキャリア教育開始を希望する学生は、全体の46.8%に対し、実際に1年生からキャリア教育を受けている者は33%しか存在しない。開始時期にも大学と学生の間で認識ギャップがある。

これらの対応を行うことで大学のキャリア教育と大学生や企業のニーズのギャップをある程度埋めることが中長期的に可能になる。

第4に、キャリアセンターの充実である。同大学のキャリアセンターなどにヒアリングをしたところ、大連外国語大学では約1万5,000人の学生に対してキャリア関連の講座や学生のサポートを担当しているキャリアセンターには7名のスタッフがいるのみで、組織的にキャリア支援の体制が整備されて

いない状況が伺える。興味深かったのは日本の大学のキャリア教育やキャリアセンターの仕組みについて学びたいという声が多かったことである。日本にいと、教育面でも世界と比較した遅ればかりが目につきがちだが、組織的なキャリア支援の体制や学生の意欲向上に向けた取り組みなどは中国にとって参考になる面があるということだ。

第5に、キャリア教育の教員およびスタッフの育成や専門教員採用である。アンケート結果にもあるように、キャリア教育に携わる教員に専門性や実務経験がないことへの不満は大きい。こうした専門性を持つ教員の採用を行いつつ、大学内部で教員およびスタッフの育成の仕組みを考える必要がある。

## 参考文献

- Kumon, Takashi (2017), "The Effect of "Being" Education on the Career Mindset: an Analysis of Chinese University Students 2014-2016". Journal of The Institute for Asian Studies No.44, pp.145-164.
- Schein, E.H. (1978), Career Dynamics: Matching individual and organizational needs, Addison-Wesley. (二村敏子・三善勝代訳『キャリア・ダイナミクス』白桃書房、1991年。)

柏木仁 (2016) 『キャリア論研究』文真堂。

九門大士 (2019) 「中国の大学におけるキャリア教育に関する大学生の意識調査－大連外国語大学との日中共同研究結果より－」『アジア研究所所報』第174号、8～9ページ。

九門大士 (2018) 「AI時代のキャリア教育における“Being”の重要性～日中大学生キャリア開発研修(2014年～2016年)の事例より～」『早稲田大学トランスナショナルHRM研究所会報』第9号 29～32ページ。

高静 (2013) 「中国の大学における職業生涯教育の拡大とその課題－山東省3大学を事例に－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部 第



62号 59～68ページ。

坂柳恒夫（1996）「大学生のキャリア成熟に関する研究－キャリア・レディネス尺度（CRS）の信頼性と妥当性の検討」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第20号、pp.9-18.

蔣純青（2013）「中国の大卒者就職制度の変遷」『専修大学社会科学研究所月報』599、1～23ページ、専修大学社会科学研究所。

趙峰（2010）『高校就業指導工作体系研究』中国市場出版社。

張任（2015）「中国における大学のキャリア教育の展開に関する考察－素質教育の補助と延長という視点から－」『東アジア研究』（13）、45-73、山口大学大学院東アジア研究科。

張任（2016）「中国の大学におけるキャリア教育の展開に関する考察」、東アジア博甲第99号、山口大学。